



ACI ファブリックへのスイッチの接続

- [ACI ファブリック トポロジ \(1 ページ\)](#)
- [他のデバイスに接続するための準備 \(2 ページ\)](#)
- [APIC へのリーフスイッチの接続 \(3 ページ\)](#)
- [スパインスイッチへのリーフスイッチの接続 \(5 ページ\)](#)
- [FEX 変換とサポート \(7 ページ\)](#)
- [ギガビットイーサネット モジュール \(GEM\) の取り付け \(9 ページ\)](#)
- [第 1 世代スイッチから第 2 世代スイッチへのノードの移行 \(9 ページ\)](#)
- [オプションのコンソールインターフェイスのセットアップ \(12 ページ\)](#)
- [オプションの管理接続の設定 \(13 ページ\)](#)
- [トランシーバおよび光ケーブルのメンテナンス \(13 ページ\)](#)

ACI ファブリック トポロジ

ACI ファブリック トポロジには、次の主要なコンポーネントが含まれます。

- Application Centric Infrastructure Controller (APIC) アプライアンス (APIC のクラスター)
- リーフスイッチ (スイッチの互換性については、[データシート](#)を参照してください)。
- スパインスイッチ (スイッチの互換性については、次の[データシート](#)を参照してください。)

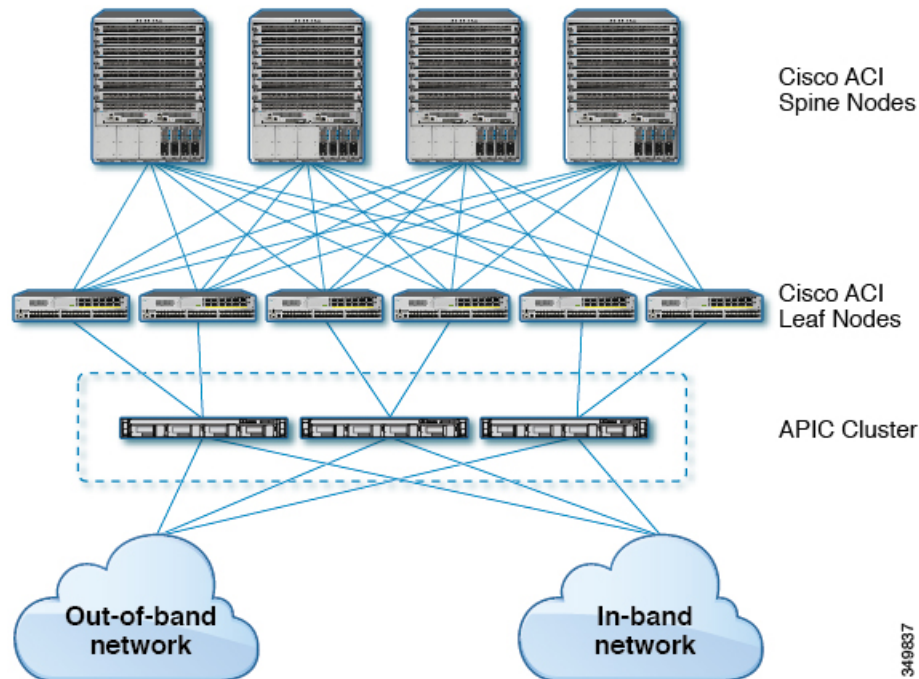
詳細については、『[Cisco APIC Installation, Upgrade, and Downgrade Guide](#)』を参照してください。



- (注) エンドポイント間の最適ではない転送を防ぐには、ファブリック内の各リーフスイッチを、同じファブリック内の各スパインスイッチに接続します。

次の図に示すように、各 APIC は 1 個または 2 個のリーフスイッチに接続され、各リーフスイッチは同じファブリック内の各スパインスイッチに接続される必要があります。

図 1: APIC クラスタ、リーフノード、スパインノード間の接続



349837

他のデバイスに接続するための準備

ファブリックデバイスの接続の準備として、インターフェイスのタイプごとに次の事項を考慮し、接続前に必要な機器をすべて揃えてください。

- 各インターフェイス タイプに必要なケーブルのタイプ
- 各信号タイプの距離制限
- 必要な他のインターフェイス機器



(注) 電源コードおよびデータ ケーブルをオーバーヘッドケーブルトレイまたはサブフロア ケーブルトレイに配線する場合には、電源コードおよび他の潜在的なノイズ発生源を、シスコ機器で終端するネットワーク配線からできるかぎり遠ざけておくことを強く推奨します。長いパラレルケーブルを 3.3 フィート (1 メートル) 以上離して設置できない場合は、ケーブルをアース付きの金属製コンジットに通して、潜在的なノイズ発生源をシールドしてください。

光トランシーバは、ケーブルに取り付けられていない状態で届く場合があります。これらのトランシーバとケーブルが損傷しないように、トランシーバをポートに設置するときはケーブルから外したままにし、その後で光ケーブルをトランシーバに挿入することをお勧めします。トランシーバをポートから取り外す場合は、トランシーバを取り外す前にケーブルを取り外します。

トランシーバと光ケーブルの有効性と寿命を最大化するには、次の手順を実行します。

- トランシーバを扱うときは、常にアースに接続されている静電気防止用リストストラップを着用してください。スイッチは通常、トランシーバを取り付けるときにアースされ、リストストラップを接続できる静電気防止用ポートを備えています。静電気防止用ポートが見つからない場合は、リストストラップをアース（シャーシのアース接続など）に接続します。
- トランシーバの取り外しや取り付けは、必要以上に行わないでください。取り付けおよび取り外しを頻繁に行うと、耐用年数が短くなります。
- 高精度の信号を維持し、コネクタの損傷を防ぐために、トランシーバおよび光ファイバケーブルを常に埃のない清潔な状態に保ってください。減衰（光損失）は汚れによって増加するので、減衰量は 0.35 dB 未満に保つ必要があります。
 - 埃によって光ファイバケーブルの先端が傷つかないように、取り付け前にこれらの部品を清掃してください。
 - コネクタを定期的に清掃してください。必要な清掃の頻度は、設置環境によって異なります。また、埃が付着したり、誤って手を触れた場合には、コネクタを清掃してください。ウェットクリーニングやドライクリーニングが効果的です。設置場所の光ファイバ接続清掃手順に従ってください。
 - コネクタの端に触れないように注意してください。端に触れると指紋が残り、その他の汚染の原因となることがあります。
- 埃が付着していないこと、および損傷していないことを定期的に確認してください。損傷している可能性がある場合には、清掃後に顕微鏡を使用してファイバの先端を調べ、損傷しているかどうかを確認してください。

APIC へのリーフスイッチの接続

1 台または 2 台（冗長性確保のために推奨）の Cisco Nexus 9300 プラットフォーム ACI モードリーフスイッチを、ACI ファブリックの各 Application Policy Infrastructure Controller (APIC) にダウンリンクする必要があります。APIC に取り付けられている仮想インターフェイスカード（VIC）のタイプにより、リーフスイッチを APIC に接続するために使用できるインターフェイスケーブルのタイプが決まります。

- **VIC 1225T** モジュールは、銅コネクタ、銅ケーブル、および銅ダウンリンクポートを備えたスイッチ（例：Cisco Nexus 93108TC-FX）をサポートしています。
- **VIC 1255** モジュールは、光トランシーバ、光ケーブル、および光ダウンリンクポートを備えたスイッチ（例：Cisco Nexus 93600CD-GX スイッチ）をサポートしています。
- **VIC 1455** モジュールは、光トランシーバ、光ケーブル、および光ダウンリンクポートを備えたスイッチ（例：Cisco Nexus 93600CD-GX スイッチ）をサポートしています。



(注) ブレークアウトポートは Cisco APIC 接続には使用できません。

始める前に

ファブリック内の APIC およびリーフスイッチは、ラックに完全に取り付け、接地する必要があります。

ステップ 1 インターフェイスケーブルを APIC に取り付けられた仮想インターフェイスカード (VIC) の 2～4 個のポートのいずれかに接続します。ケーブルがそのトランシーバにまだ取り付けられていない場合は、トランシーバを VIC ポートに挿入し、その後で光インターフェイスケーブルをトランシーバに接続します。

- **VIC 1225T** 10GBASE-T 銅線モジュールの場合は、RJ-45 コネクタ付きの 10GBASE-T ケーブルを使用します。
- **VIC 1225** 光モジュールの場合は、次のトランシーバおよびケーブルのセットのいずれかを使用します。
 - 最大 6.1 マイル (10 km) のリンク長をサポートする Cisco 10GBASE-LR トランシーバ (SFP-10G-LR)
 - 次のリンク長をサポートする Cisco 10GBASE-SR トランシーバ (SFP-10G-SR)
 - 最大 984 フィート (300 m) に対し 2000 MHz MMF (OM3) を使用
 - 最大 1312 フィート (400 m) に対し 4700 MHz MMF (OM4) を使用
 - Cisco SFP+ アクティブ光ケーブル (SFP-10G-AOCxM (x は 1、3、5、7 メートル単位の長さ))
 - Cisco SFP+ Twinax Cables (SFP-H10GB-CUxM [x は 7 メートル単位の長さ])
- **VIC 1455** 光モジュール、SFP28 モジュール、10-Gigabit のみの場合は、次のトランシーバおよびケーブルのセットのいずれかを使用します。
 - 最大 6.1 マイル (10 km) のリンク長をサポートする Cisco 10GBASE-LR トランシーバ (SFP-10G-LR)
 - 次のリンク長をサポートする Cisco 10GBASE-SR トランシーバ (SFP-10G-SR)
 - 最大 984 フィート (300 m) に対し 2000 MHz MMF (OM3) を使用
 - 最大 1312 フィート (400 m) に対し 4700 MHz MMF (OM4) を使用
 - Cisco SFP+ アクティブ光ケーブル (SFP-10G-AOCxM (x は 1、2、3、5、7、または 10 のメートル単位の長さ))
 - Cisco SFP+ Twinax Cables (SFP-H10GB-CUxM [where x=1, 2, 3, 5, 7, or 10 for lengths in meters])

(注) VIC 1455 には、4 個のポート、ポート 1、ポート 2、ポート 3、およびポート 4 が左から右にあります。

- すべてのポートの速度は、10 ギガビットまたは 25 ギガビットのいずれかにする必要があります。
- ポート 1 とポート 2 は、APIC 上の eth2 に対応する 1 個のペアであり、ポート 3 とポート 4 は、APIC 上の eth2 に対応する別のペアです。各ペアに対して許可される接続は 1 つだけです。たとえば、1 本のケーブルをポート 1 またはポート 2 に接続し、別のケーブルをポート 3 またはポート 4 に接続することができます (ペアで 2 本のケーブルを接続しないでください)。

このスイッチでサポートされるトランシーバ、アダプタ、およびケーブルを確認するには、『[Cisco トランシーバ モジュール互換性情報](#)』を参照してください。

トランシーバの仕様と取り付けに関する情報を確認するには、『[Cisco Transceiver Modules Installation Guides](#)』を参照してください。

ステップ 2 インターフェイス ケーブルの反対側をリーフスイッチのダウンリンク ポートに接続します。

- Cisco 10GBASE-LR または -SR トランシーバおよびケーブルの場合は、ケーブルをトランシーバに接続する前に、トランシーバをリーフスイッチのダウンリンク光ポートに挿入します。
- Cisco SFP+ アクティブ光ケーブルの場合は、ケーブル上のトランシーバをリーフスイッチのダウンリンク光ポートに挿入します。
- 10GBASE-T 銅ケーブルの場合は、ケーブル上の RJ-45 コネクタをリーフスイッチのダウンリンク BASE-T ポートに挿入します。

(注) このスイッチでサポートされるトランシーバ、アダプタ、およびケーブルを確認するには、『[Cisco トランシーバ モジュール互換性情報](#)』を参照してください。

スパインスイッチへのリーフスイッチの接続

エンドポイント間で最適な転送を行うには、同じ ACI ファブリック内で各リーフスイッチを各スパインスイッチに接続する必要があります。

このスイッチでサポートされるトランシーバ、アダプタ、およびケーブルを確認するには、『[Cisco トランシーバ モジュール互換性情報](#)』を参照してください。

トランシーバの仕様と取り付けに関する情報を確認するには、『[Cisco Transceiver Modules Installation Guides](#)』を参照してください。

**警告** ステートメント 1055 - クラス I およびクラス 1M レーザーまたはその一方

目に見えないレーザー放射があります。望遠鏡を使用しているユーザに光を当てないでください。これは、クラス 1/1M のレーザー製品に適用されます。

**警告** ステートメント 1056 - 未終端の光ファイバケーブル

未終端の光ファイバの末端またはコネクタから、目に見えないレーザー光が放射されている可能性があります。光学機器で直接見ないでください。ある種の光学機器（ルーペ、拡大鏡、顕微鏡など）を使用し、100 mm 以内の距離でレーザー出力を見ると、目を傷めるおそれがあります。

始める前に

- ファブリック (例 : N9k-C9364C、N9K-C9332C、N9K-C9316D-GX、および N9K-C9332D-GX2B) 内のリーフおよびスパインスイッチは、ラックに完全に取り付け、アースする必要があります。
- ファブリック内にモジュラスイッチが存在する場合は、それらの ACI モードのラインカードがすでにインストール済みであることが必要です。ラインカードには、次のタイプがあります。
 - 32 ポート 100 ギガビット (例 : N9K-X9732C-EX)
 - 36 ポート 100 ギガビット (例 : N9K-X9736C-FX)
 - 16 ポート 400 ギガビット (例 : N9K-X9716D-GX)



(注) ACI モードで実行している場合には、同じシャーシ内に NX-OS ラインカードを含めることはできません。



(注) リーフスイッチからスパインスイッチへの複数のアップリンクがサポートされています。すべてのデバイスがリソースに平等にアクセスできるように、対称的なトポロジが推奨されます。

-
- ステップ 1** リムーバブルケーブル付きのトランシーバの場合は、トランシーバがインターフェイスケーブルから切り離されていることを確認します。
- ステップ 2** 適切なトランシーバをリーフスイッチのアクティブなアップリンクポートに差し込みます。
- ステップ 3** 同じタイプのトランシーバをラインカードのスパインスイッチポートに挿入します。
- ステップ 4** リムーバブルケーブル付きのトランシーバの場合は、これらのトランシーバそれぞれの開放端にインターフェイスケーブルを挿入します。
- ステップ 5** ACI ファブリックの各スパインスイッチに対して、ステップ 1～4 を繰り返し行います。リーフスイッチが ACI ファブリックの各スパインスイッチに接続されます。
- ステップ 6** ACI ファブリックの各リーフスイッチに対して、ステップ 1～5 を繰り返し行います。ACI ファブリックの各リーフスイッチがネットワークの各スパインスイッチに接続されます。
-

ファブリックは自動的に等コストマルチパス (ECMP) を実装し、すべてのリンクを有効化します。リンクを設定する必要はありません。

FEX 変換とサポート

デフォルトでは、Cisco Nexus スイッチはスイッチモードで動作します。ただし、Cisco Nexus FX3 プラットフォームスイッチは、ファブリックエクステンダ (FEX) モードもサポートしています。

この FEX モードにより、スイッチは Cisco Nexus 2000 シリーズファブリックエクステンダのように動作できます。その結果、スイッチは次のものを必要としません。

- 独立したソフトウェアのアップグレード
- 構成のバックアップ
- 他のメンテナンスタスク

ACI での FEX トポロジの既存の利点に加えて、FEX モードの FX3 スイッチは、ホストへのホストインターフェイス (HIF) 接続あたり最大 25G の速度をサポートします。

Nexus FX3 スイッチは、ACI リリース 6.0 (2) から FEX モードをサポートします。

リーフから FEX 変換

リーフから FEX 変換では、リーフイメージに存在する FEX5 バイナリが使用されるため、デバイスは変換前と同じバージョンの FEX モードで起動します。

- リーフスイッチを FEX モードスイッチに変換するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** リーフにログインして変換します

ステップ2 `ibash` シェルで `boot-fex` コマンドを実行します。バックエンドで FEX イメージが検証され、ブート変数として設定されます。

ステップ3 `reload` コマンドを実行します。次に、リーフは FEX に変換されます。

FEX からリーフ変換

FEX からリーフへの変換では、FEX は、FEX に変換する前に使用されていた既存のリーフ イメージを使用するか、管理の設定後に新しいものをコピーできます。

- FEX モードスイッチをリーフ スイッチに変換するには、次の手順を実行します。
-

ステップ1 ブートフラッシュ内の既存のリーフ イメージである ACI イメージを使用するか、`copy scp` コマンドを介して別の ACI イメージを FEX ブートフラッシュにコピーします。

ステップ2 `boot aci <image> CLI` を実行してブート変数を設定し、リーフに変換します。

新しい FEX 設定

Cisco Nexus FX3 プラットフォーム スイッチは、リーフ モードで出荷されます。

- Cisco Nexus FX3 プラットフォーム スイッチを FEX として使用するには
-

ステップ1 コンソールから `boot-fex CLI` を実行して FEX ブート変数を設定し、リロードして FEX に変換します。

ステップ2 新しい FEX をトポロジ内のリーフに接続します。

トポロジから FEX の中の既存のリーフを変更する

既存の ACI トポロジでは、リーフ スイッチはスパイン スイッチに直接接続されます。

ステップ1 リーフから FEX への変換は、`boot-fex` コマンドを介して実行することでトリガーできます。

ステップ2 FEX (以前のリーフ) を起動するには、トポロジ内の別のリーフに再接続する必要があります。

ステップ3 FEX ポリシーは、必要に応じて APIC で構成できます。

トポロジ内の既存の FEX からリーフに変更する

既存の ACI トポロジでは、FEX スイッチはリーフ スイッチに直接接続されます。

-
- ステップ 1** FEX からリーフへの変換は、FEX で `boot aci <image>` コマンドを使用してトリガーできます。
- ステップ 2** リーフ（以前の FEX）は、APIC で起動するためにトポロジ内のスパイン スイッチに再接続する必要があります。
- ステップ 3** その後、必要に応じて APIC でリーフ ポリシーを構成できます。
-

ギガビットイーサネット モジュール (GEM) の取り付け

- ステップ 1** `setup-clean-config` コマンドを使用して、現在の設定をクリアします。
- ステップ 2** 電源を切断してスイッチの電源をオフにします。
- ステップ 3** 現在の GEM カードを新しい GEM カードに交換します。
- ステップ 4** スイッチの電源を入れます。
-

第 1 世代スイッチから第 2 世代スイッチへのノードの移行

仮想ポートチャネル (vPC) を構成している/していない場合がある第 1 世代 Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチ。同じケーブルを使用している第 2 世代 Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチに移行しています。

第 1 世代 Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチには、製品 ID に -EX、-FX、または -GX を含まないそれらのスイッチを含みます。

第 2 世代 Cisco Nexus 9000 シリーズのスイッチには、製品 ID に -EX、-FX、-GX、またはそれ以降のサフィックスが付いているスイッチが含まれます。

第 1 世代のスイッチを第 2 世代のスイッチに移行するには、次の手順を実行する必要があります。

このスイッチでサポートされるトランシーバ、アダプタ、およびケーブルを確認するには、『[Cisco トランシーバ モジュール互換性情報](#)』を参照してください。

トランシーバの仕様と取り付けに関する情報を確認するには、『[Cisco Transceiver Modules Installation Guides](#)』を参照してください。

始める前に

- 移行中の第 1 世代のスイッチに接続している Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC) をファブリックのその他のスイッチに移動し、Cisco APIC クラスタが「完全に適合」になるまで待ちます。

- 次の移行パスがサポートされます。
 1. 第1世代 Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) のスイッチから、同じソフトウェア リリースを実行している第2世代 Cisco ACI スイッチへの移行。
 2. 異なるソフトウェア リリースを実行している第1世代の Cisco ACI スイッチから第2世代の Cisco ACI スイッチへの移行。

新しいスイッチに必要な新しいリリースで既存のスイッチがサポートされていない場合は、2番目の移行パスが必要です。例えば、Cisco ACI スイッチ 15.0 (1) 移行のリリースからサポートされていない Cisco Nexus 9300 (製品 ID にサフィックス -E 付きまたはなし) 第1世代 Cisco ACI スイッチから、15.0 (1) 移行のみでサポートされている新しいスイッチのいずれかに移行する場合。

第1世代のスイッチが vPC を構成している場合は、2番目の移行パスに進む前に、次の必須の前提条件の手順を完了します。

1. トラフィック損失の可能性があるため、メンテナンス ウィンドウ中に vPC 移行を実行することをお勧めします。
2. この手順を実行する前に、自動ファームウェア更新ポリシーを無効にする必要があります。
3. クラスタが古いリリースを実行している場合は、Cisco APIC クラスタを 4.2 (7v) リリースにアップグレードします。また、第1世代のスイッチを 14.2 (7v) リリースにアップグレードします。ファブリックが統合されるまで待ちます。
4. Cisco APIC クラスタを 5.2 (7f) リリースにアップグレードし、クラスタが「完全に適合」するのを待ちます。
5. 新しい第2世代スイッチがプリロードされ、Cisco APIC と同等のリリース、つまり 15.2(7f) リリースが実行されていることを確認します。ソースバージョンとターゲットバージョンのソフトウェア リリース 4.2(7v)/14.2(7v) および 5.2(7f)/15.2(7f) 以外のソフトウェア リリースは、この移行手順でサポートされていません。



- (注)
- 第2世代スイッチのポート数とポートタイプは、交換する第1世代スイッチと一致している必要があります。番号が一致しない場合は、新しいポートまたはポートタイプに対応するように構成を変更する必要があります。これは、同じソフトウェアバージョンを維持しながらハードウェアを移行する場合にも当てはまります。
 - 第1世代の非 vPC リーフ スイッチまたは第1世代スパイン スイッチを第2世代スイッチに移行するには、以下の手順の [ステップ 1 \(11 ページ\)](#) ~ [ステップ 6 \(11 ページ\)](#) に従ってください。vPC 関連の情報は、この移行には適用されません。

第1世代の非 vPC リーフ スイッチまたは第1世代スパイン スイッチを第2世代スイッチに移行する必要がある場合、送信元およびターゲットソフトウェアリリース 4.2 (7v) /14.2 (7v) および 5.2 (7f) /15.2 (7f) は必要ありません。ファブリックが、第2世代のスイッチ PID をサポートする必要なソフトウェア リリースを実行していることを確認します。
Cisco ACI

ステップ 1 Cisco APIC GUI から、動作中のセカンダリ vPC スイッチ ノードに対して **コントローラからの削除操作** を実行します。

Cisco APIC クリーンにより、スイッチが再起動します。操作が完了するまで約 10 分待ちます。このアクションでは、すべてのトラフィックでデータ トラフィックにその他の第一世代スイッチを使用するように促します。

- (注) **コントローラからの削除操作** を実行すると、動作可能なセカンダリ vPC のトラフィックが数秒間失われます。

ステップ 2 取り外した第2世代のスイッチからケーブルを接続解除します。

ステップ 3 スイッチ固有の『ハードウェア取り付けガイド』にある「スイッチシャーシの取り付け」セクションに記載されている手順の順序を逆に、第一世代のスイッチを取り外します。

ステップ 4 スイッチ固有の『ハードウェア取り付けガイド』の「スイッチシャーシの取り付け」セクションに記載されている手順に従って、第2世代スイッチを取り付けます。

ステップ 5 第1世代から取り外したゆるんだケーブルを、第2世代スイッチの同じポートに接続します。

ステップ 6 で新しい第2世代スイッチを登録します。Cisco APIC

新しいノードを同じノード名およびノードIDに登録します。このスイッチはファブリックの一部になります。Cisco APIC では新しいスイッチにポリシーをプッシュし、スイッチ世代の不一致があるため vPC レッグがダウンしたままになります。この時点で、vPC プライマリは引き続きデータトラフィックを送信します。

ステップ 7 [ステップ 8 \(11 ページ\)](#) に進む前に、新しいスイッチが構成をダウンロードするまで 10 ~ 15 分待ちます。

ステップ 8 Cisco APIC GUI から、vPC プライマリの **コントローラからの削除操作** を実行します。Cisco APIC クリーンにより、スイッチが再起動します。

操作が完了するまで約 10 分待ちます。Cisco APIC によりダウン状態になっていた第 2 世代スイッチの vPC レッグが起動します。このアクションにより、すべてのトラフィックが新しい第 2 世代スイッチに移動するように求められます。新しい第 2 世代スイッチの vPC ポートが起動するまでに数分かかる場合があります、その間にトラフィックがドロップします。トラフィック ドロップの期間は、ファブリック内のスケールとフローによって異なります。

- ステップ 9** 第 1 世代スイッチからケーブルを接続解除します。
- ステップ 10** [ステップ 3 \(11 ページ\)](#) で行ったように、第 1 世代のスイッチを取り外します。
- ステップ 11** で行ったように、第 2 世代スイッチを取り付けます。 [ステップ 4 \(11 ページ\)](#)
- ステップ 12** [ステップ 5 \(11 ページ\)](#) で行ったように、緩んだケーブルを接続します。
- ステップ 13** で新しい第 2 世代スイッチを登録します。Cisco APIC

新しいノードを同じノード名およびノード ID に登録します。このスイッチはファブリックの一部になります。Cisco APIC ではポリシーを新しいスイッチにプッシュし、vPC レッグが起動し、トラフィックの通過を開始します。

オプションのコンソールインターフェイスのセットアップ

スイッチの初期設定を実行するために、オプションでコンソールインターフェイスをセットアップできます。その場合には、アクセサリ キットで提供されるインターフェイス ケーブルを使用して、スイッチをコンソール デバイスに接続してください。スイッチ上のコンソールポートをモデムに接続できます。モデムに接続していない場合には、スイッチの電源投入前かスイッチのブート プロセスの完了後のいずれかに接続してください。

始める前に

コンソール デバイスは、VT100 ターミナル エミュレーションおよび非同期伝送をサポートする必要があります。

ステップ 1 次のデフォルトのポート特性に一致するように、ターミナル エミュレータ プログラムを設定します。

- 9600 ボー
- 8 データ ビット
- 1 ストップ ビット
- パリティなし

ステップ2 アクセサリ キットのインターフェイス ケーブルの RJ-45 コネクタをスイッチの RS-232 ポートに挿入し、ケーブルのもう一方の端の DB-9 コネクタをコンソール デバイスのシリアル ポートに挿入します。

次のタスク

以上で、スイッチの初期設定を実行できるようになりました（『Cisco ACI Getting Started Guide』を参照）。

オプションの管理接続の設定

モニタリングおよびトラブルシューティングの目的で、アウトオブバンド管理接続をセットアップできません（オプション）。その場合には、スイッチに応じてスイッチの RJ-45 管理ポートまたは SFP 管理ポートを、外部ハブ、スイッチ、またはルータに接続してください。

始める前に

IP アドレスの競合を防ぐため、管理接続を作成する前にスイッチの初期設定を完了し、IP アドレスを確立しておく必要があります。

ステップ1 インターフェイス ケーブルをスイッチの管理ポートに接続します。

ステップ2 ケーブルのもう一方の端部を外部ハブ、スイッチ、またはルータに接続してください。

トランシーバおよび光ケーブルのメンテナンス

高精度の信号を維持し、コネクタの損傷を防ぐためには、トランシーバおよび光ファイバケーブルを常に埃のない清潔な状態に保つ必要があります。汚れによって減衰（光損失）は増加します。減衰量は 0.35 dB 未満でなければなりません。

メンテナンスの際には、次の注意事項に従ってください。

- トランシーバは静電気に敏感です。静電破壊を防止するために、アースしたシャーシに接続している静電気防止用リストストラップを着用してください。
- トランシーバの取り外しおよび取り付けは、必要以上に行わないでください。取り付けおよび取り外しを頻繁に行うと、耐用年数が短くなります。
- 未使用の光接続端子には、必ずカバーを取り付けてください。埃によって光ファイバケーブルの先端が傷つかないように、使用前に清掃してください。
- コネクタの端に触れないように注意してください。端に触れると指紋が残り、その他の汚染の原因となることがあります。

- コネクタを定期的に清掃してください。必要な清掃の頻度は、設置環境によって異なります。また、埃が付着したり、誤って手を触れた場合には、コネクタを清掃してください。ウェットクリーニングとドライクリーニングの両方が効果的です。設置場所の光ファイバ接続清掃手順に従ってください。
- 埃が付着していないこと、および損傷していないことを定期的に確認してください。損傷している可能性がある場合には、清掃後に顕微鏡を使用してファイバの先端を調べ、損傷しているかどうかを確認してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。